

研究主題

確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成  
～国語科・算数科を通して～

1. 研究主題解明に向けて

(1) 確かな学力を育むための基礎

子ども自らが学習を主体的なものにしていくためには、その前段階として今まで学習してきた内容が子どもの中に定着している（＝確かな学力）必要があるのは明らかである。子どもに確かな学力が身につけていなければ、学習を完結へと導いていくことが難しく、満足感や達成感のない学習となり、意欲も減退していく。

しかし、学習の最初から子ども達全員に今までの学習内容が充分身につけているかといえば、必ずしもそうとは言い切れない部分があるのも事実である。そういった子ども達にとっての学びとは、学習を重ねる中で常に充分でない部分を補いながら進めていくものとなるはずである。つまり、今までの学習で分からなかったところが、次の学習のときには分かるようになったり、また、前の学習で50%の達成率だったものが、次の学習で90%になったりするという具合にである。

そこで、学習を進めていく上で、子ども達に確かな学力を身に付かせるためには、子ども達一人一人の意欲を大切にしていく必要があると考える。子ども達の中に学習を何とかやり遂げたいという意欲があれば、今までの学習内容で不足していた部分を補いながらも学習を完結させることが可能であろう。つまり、確かな学力を身に付けていくためには、「関心・意欲・態度」といった子どものやる気を大切にすることが重要になってくるのである。また、どんなに魅力的な教材であっても子ども達自身の中にやらされているという思いがあれば、達成感も芽ばえず、未消化な学習となってしまう。つまり、確かな学力を身に付けるということと、子どもの意欲との関係は密接であり相互的なものでなければならない。そこで子どもの意欲を高めていくことが、確かな学力を身に付ける上での基礎になると考えている。

(2) 主体的な学びを継続させるには

以下のような子どもの姿が主体的な学びのイメージとして挙げられると思う。

- ・ 子どもがやる気をもって真剣に取り組んでいる。
- ・ 自ら課題をもち、その解決方法を考え、実行しようとしている。
- ・ 課題解決のためのハードルを、自分で乗り越えようと努力している。
- ・ 課題達成することによって、大きな満足感や充足感が得られている。

どれも、子ども自らが主体となって学習を進めていくことがポイントである。このような子どもの姿を導き出すためには、教師は常に子どもの意欲を大切にしていく必要がある。また、そのためには子どもにとって魅力的な教材作りとできる限り子どもの意識に沿った学習計画が必要である。つまり、教師が子どもの側に立って子どもを見取っていくのである。

(3) 主体的な学びを継続させるための評価の工夫

そこで、子ども達の主体的な学びを継続させ子ども側に立った学びとなるための評価が必要になってくる。子ども達の「関心・意欲・態度」に焦点を当てながら評価方法を

考えていく。まず「関心・意欲・態度」を見取っていく上で、それぞれ関心と意欲と態度を切り離して考えてみる。関心とは「対象についての具体性がともなっている」、意欲とは「行動に直接結びついている」、態度とは「持続性がある」ととらえてみた。そこで、「〇〇の△△について調べてみたい」、「〇〇はどうやってできたのか」といったものが関心、「〇〇についてこれを使って調べてみよう」、「こんな方法で発表しよう」といったものは意欲ととらえることができる。これらの関心と意欲に持続性が見られれば「態度」も養われていると見取ることができる。

これらの「関心・意欲・態度」をとらえる方法としては、子どもの授業後の感想等を累積していく座席表カルテを活用したい。さらに、本時ごとでの評価基準として「～のことに触れている」、「～と記述している」などと具体的な記述でキーワード化していく。そうする事で、子どもの具体的な姿を見取っていけるようにしたい。

また、座席表カルテを切り離して用いることで、一人一人の変容と「態度」を見取っていくことも可能になる。

#### (4) 国語科における確かな学力について

国語科の確かな学力の一つとして、国語部では「書く力」を高めることに取り組んでいる。国語科において、自分の考えや思いを表現するために「書く力」が最も必要とされていると考えられるからである。子どもの「書く力」を向上させるためには、(1) で書いたような「意欲」を育みながら、同時に「書く技能」を身につけていく必要があると考える。特に 6 学年の学習指導要領においては、「目的や意図に応じ、考えたことなどを筋道立てて文章に書くこと」に加えて「効果的に表現しようとする」ということが「書くこと」の目標としてあげられている。従って、効果的な表現方法はどのようなものがあるかという視点にたったの指導が重要であると思う。具体的な取り組みとして、多様な表現方法を経験できるような場と書く機会ができるだけ多くなるような場を設定することを心がけている。書く機会については、1 学期から定期的に日記学習に取り組み、書くことへの抵抗感をなくしてきている。表現方法についても、書き出しに読み手の注意を引くような工夫の指導や接続語の効果的な活用法、文章を詳しく長く書く方法などを、授業の中で扱い指導してきている。また、それら児童の書いた作品を紹介したり、教師が価値づけて賞賛したりすることで、子どもの書く意欲はより高められていくものと考えている。

## 2. 単元名 言葉と文化でトリビアの泉を開こう

### 3. 単元の目標

- (1) 言葉と文化との関係について興味をもち、自分なりの課題をもつことができるようになる。
- (2) 自分なりの言葉と文化に対する課題を目的に沿って工夫しながら発表することができるようにする。

### 4. 単元について

- 本学級の児童は、1 学期からほぼ毎日作文を書く事を日課としており、文章を書くことへの抵抗は少なくなってきた。1 学期に学習した「ガイドブックを作ろう」では、修学旅行のガイドブックを下級生に紹介しようという目的の元に、読み手が興味をもつように、図や写真を分かりやすくレイアウトするなどして読み手の事を意識したガイド

ブック作りに取り組んだ。さらに、読んでいて楽しいクイズやチャート図を入れたりするなどの工夫も見られ、意欲的に取り組んでいた。しかし、話し合いの場などでは、自分の考えを意欲的に発言できる子が多い反面、自分の考えのみで安心してしまう傾向があり、深まりのある話し合いや相手の意図を考えながら聞くことが苦手な傾向がある。従って、じっくりと物事に取り組んで思考するという場を多く設定する必要性を感じている。

- 本単元は、言葉と文化との関係に興味をもち、自ら課題をたてて研究レポートを作成するものである。ことばあそびや現在日本語として使われている外来語に焦点をあてることで、言葉のリズムや伝わり方、文化、歴史などの自分が感じた疑問や調べてみたいことについての追求を深めていく。日常生活の中に定着している日本語の中に実はいろいろな側面がある事を知ることで、普段意識することなく使っている日本語を文化という面から考えるきっかけとなるであろう。また、課題についてまとめた事をお互いに発表しあう場を設定することで、聞くことの大切さも意識させることができる。そうすることで、発表する側の意欲を高めることにもつながっていくと考える。
- そこで、指導にあたっては次の点から支援を具体化していきたい。
  - ・ ことばあそびをする場を設定することで日本語の多様さに着目できるようにする。
  - ・ 「言葉と文化でトリビアの泉を開こう」を設定し、聞く側も評価する活動を設けることで、聞く意識を高めたり、聞き手を意識した発表を工夫したりすることができるようにする。
  - ・ 先に教材文を提示し課題意識に沿った読み方をすすめていくことで、子ども達自身がそれぞれの課題について見通しをもつことができるようにする。
  - ・ 計画段階でしっかりと課題をもたせ、児童の多様な発表方法を引き出せるようにする。

## 5. 評価規準

	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の言葉と文化に関心をもち、課題を決め解決のための方法を工夫したり、資料を探したりしている。</li> <li>・ 言葉と文化について自分の考えをもちながら課題を追求しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意図を明確に伝えるため、組み立てを工夫して話している。</li> <li>・ 興味をもった課題について、聞き手に分かりやすいように発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の課題について調べたことが正確に伝わるように、事象と感想、意見などを区別して書く。</li> <li>・ 調査や活動の内容を効果的に表現するため、よさを確かめたり工夫したりして書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書かれている内容について事象と感想・意見との関係を押さえ、自分の考えを明らかにしながら読む。</li> <li>・ 言葉と文化について考える目的で文章を読み、内容的に押さえながら要旨をとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句の由来や日本の伝統的な言葉のリズムに関心をもち、</li> <li>・ 言葉と文化に関する事柄について主体的に調べている。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの行動や表情の観察</li> <li>・ 子どもの発言、つぶやき</li> <li>・ 学習の振り返りの感想</li> <li>・ 研究発表の内容</li> </ul>				

6. 学習計画 (15時間)

時間	学習活動・学習内容 ☞子どもの追求意識	評価の観点					評価基準	評価方法
		関	話	書	読	言		
七時間 本時3 /7	<p>教材文を読んで、外来語を中心とした日本の文化について考える。</p> <p>○ 「外来語と日本文化」を読む。 ・ 要旨を要約する力(本時) ・ 課題意識をもった読み方 ☞この説明文は、外来語がどのようにして日本に入ってきたかが分かりやすく書かれているね。</p> <p>○ 「現代を生きる五音、七音」を読む。 ・ 課題解決への意欲 ・ 日本語についての関心 ・ 日本語と文化とのつながり ☞五音と七音のリズムもよく使われているんだ。 ☞日本語って、おもしろいね。 ☞他にも日本語と文化が関わっている言葉ってあるのかな? ☞探してみよう ☞そして、みんなで言葉について調べて「言葉と文化のトリビアの泉」を開いてみよう。</p>	○			○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>「外来語と日本文化」の内容を文章構成、言葉の使い方などの表現に着目しながら要約できる。</li> <li>今までの学習や生活経験をもとに、言葉と文化とのかかわりに関心を持ち、自分にあった課題を探そうとする。</li> <li>事象と感想、意見の関係から、作者の意図に気づき、それらについて自分の考えを持ちながら読んでいる。</li> <li>五音、七音の文章を音読し、言葉のリズムや響きの心地よさを感じ取っている。</li> <li>言葉と文化との関係についての考えを深めている。</li> <li>今までの学習や生活経験をもとに、言葉と文化とのかかわりに関心を持ち、自分に合った課題を探そうとしている。</li> </ul>	<p>ノート 発言</p> <p>発言</p> <p>ノート 発言</p> <p>発言 ノート</p> <p>感想</p> <p>感想 ノート</p>
六時間	<p>課題について調べてまとめる。</p> <p>○ 自分の課題についてまとめる方法を考える。 ・ 課題達成の見通し ☞よし、僕は○○について調べてみるよ。 ☞私は、○○と○○との関係について調べてみよう。 ☞どうまとめようかな? ☞みんながおどろくような効果的</p>	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の言葉と文化に関心をもって、まとめる方法を考えている。</li> </ul>	感想

	<p>な方法はないかな？ ☞パソコンを使ってみよう</p> <p>○ 課題について調べる。 ・ 集めた資料や情報の整理 ☞図書室に資料がなかったかな？ ☞インターネットに面白そうな資料があるぞ。 ☞テレビのコマーシャルを家で調べてこよう。</p> <p>○ 課題についてまとめる。 ・ 集めた資料や情報の整理 ・ 発表方法の工夫 ☞パソコンでまとめるためには調べた資料の中からいいものを選ぼう。 ☞外来語のクイズをつくってたのしく発表するぞ。</p>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を決め、解決のために必要な資料を探している。</li> <li>・ 言葉と文化の関係について必要な資料を意欲的に収集している。</li> <li>・ 調べたことと自分の感想や意見を区別し、「言葉と文化」について発表できる文章を書く。</li> <li>・ 友達のよさを見つけて伝えたり、友達の意見から研究をよりよいものに仕上げる。</li> </ul>	<p>活動 集めた資料の内容 感想</p> <p>作品</p> <p>活動</p>
二時間	<p>出来上がった研究レポートでトリビアの泉を開催する。</p> <p>○ 調べた事を発表する。 ・ 友達の発表のよさ ・ 言葉の使い方や歴史、文化についての関心 ・ 言葉についての理解 ☞最高〇へえだ。 ☞みんないろんなトリビアを調べているなあ。 ☞日本語って奥が深いんだなあ。 ☞楽しかったね。またやってみたいね。</p>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料を提示したり、実際に活動したりしながら作品を説明する。</li> <li>・ 互いの作品を見せ合い、よいところを見つけたり、さらに改善すべきところを教えあったりする。</li> </ul>	<p>発表</p> <p>活動 感想</p>

7 本時案 ( 3 / 15 )

(1) 本時の目標

- 内容の要旨をとらえ、要約をするために必要な文や言葉を探すことができる。
- 問いかけに対する答えの文を、分かりやすく要約することができる。

(2) 準備物

プロジェクター・パソコン・付箋紙

(3) 学習過程

学習活動・内容	教師の支援	評価
1. 教材文を音読する ・ 正確な音読  2. 答えの段落を探す ・ 内容の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が集中して音読できるよう多用な音読方法を用いる。</li> <li>○ 意見が分かれた場合はそれぞれの理由を発表させる。</li> </ul>	①発表
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">問いに対応する答えの文を作ろう</div>		
3. 答えの文を作る  ・ 答えのある段落の指定 ・ 答えとなる中心文の指定 ・ 言葉をつないでの要約	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 要約になじみの薄い児童も多いので、要約のやり方や方法を説明する。</li> <li>○ プロジェクターに文を提示することで、どのように要約するか視覚的に整理しやすいようにする。</li> </ul>	①②ノート
4. 授業の感想を書く ・ 次時への見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 付箋紙に感想を書かせ児童の自己評価状況を一覧にすることで、個々の児童の達成状況を把握する。</li> <li>○ 授業の内容を自己評価させることにより、次時の授業への見通しを持たせる。</li> </ul>	②感想

(3) 評価

- ① 答えの文に必要な文や言葉を見つけることができたか。(読)
- ② 必要な言葉をつないで、意味の通じる答えの文を作ることができたか。(書)